

****心理学部 心理学科****

2017年度生用

明治学院大学履修要項
～履修の方法を知るために～

2021

Meiji Gakuin University

目 次

はじめに	1
情報の伝達	
学修の手引き	
カリキュラム	
単位制	
履修	
授業	
試験	
成績	
卒業と学位	
単位認定	
明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム	
明治学院共通科目	2 5
人材養成上の目的・教育目標と二つの方針	2 7
心理学部心理学科	
2017 年度生	
明治学院共通科目履修の方法	3 1
心理学科履修の方法	4 5
諸資格	1 0 1
1. 社会教育主事	1 0 3
2. 社会福祉主事	1 0 5
3. 児童福祉司	1 0 7
公認心理師	

ポートへボン⇒
履修要項の最上
部に全学部共通
の学修の手引き
等がありますの
で、そちらをご
覧ください

明治学院共通科目

人材養成上の目的・教育目標

期待される学修成果

教育課程の編成及び実施に関する方針

人材養成上の目的・教育目標

明治学院共通科目の主たる開講責任を負う教養教育センターは、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、明治学院大学の教養教育の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

明治学院共通科目による教養教育は、世界に生起する諸問題について、他者との共生をめざし柔軟かつ誠実に対処することのできる人材の養成を目的とする。そしてその実現のための教育目標として、外国語教育と諸領域科目の教育が連携し、確かな思考力と表現力を養成するための総合的な教育を推進する。

外国語教育においては、コミュニケーション能力の向上と言語を育んできた自他の文化への理解の促進を助成するとともに、学生の自律的学習姿勢の涵養に必要な環境を整える。また、諸領域科目の教育においては、専門的知見の教授を通して、学生が問題を的確に理解するための読解力や分析力、問題解決のための多面的な思考力を身につけることができるよう指導する。

期待される学修成果

教養教育センターは、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成する。学生は、明治学院共通科目を体系的に学修し、所定単位を取得することにより、次の態度、知識、技能を身につけることが期待できる。

- 1 建学の精神を理解し、多様な価値観を尊重しつつ社会参加を通して他者への貢献を目指す態度
- 2 幅広い学問分野の基礎知識を有し、現代社会が抱える諸問題に対して多面的に考え、的確に価値の判断を行う能力
- 3 自ら発見した課題について、幅広い知見に基づいて、その解決策を適正かつ明確に提示する技能
- 4 他者とのコミュニケーションに必要な基盤的技能を身につけ、生涯にわたってそれを伸展させるための自主的努力をつづける態度

教育課程の編成および実施に関する方針

教養教育センターは、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、教養教育センターの定める「人材養成上の目的・教育目標」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

- 1 明治学院共通科目を、C 群(必修・選択必修)・D 群(分野別の基礎的講義科目)・E 群(実験・実習・演習的科目)・H 群(発展的科目)・I 群(英語で学ぶ授業)の各群により構成する。
- 2 C 群(必修・選択必修)

(1) 外国語科目

英語によるコミュニケーション能力の向上、初習語における基礎的運用能力の育成を目指して、下記の科目を開講する。

必修科目：「英語コミュニケーション」を1年次に配当する。

高等学校等で英語を学習していない学生には、「初習英語」を1年次に配当する。

留学生には、「日本語」科目を配当する。

選択必修：フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語を選択言語科目として配当する。

留学生は、日本語以外の言語、もしくは、E 群「日本語研究」を必修とする。

(2) 諸領域科目

建学の精神を理解し、他者への貢献を実現するために必要な知見と技能の獲得を目指して、下記の科目を開講する。

必修科目：「キリスト教の基礎」を1年次に配当する。

選択必修：「コンピュータリテラシー(入門)・(初級)」を1年次に配当する。

要求科目：「アカデミックリテラシー」を1年次配当で政治学科生に開講する。

要求科目：「社会学1」を1年次配当で社会学科生に開講する。

3 D 群科目(分野別の基礎的講義科目：自由選択)

明治学院共通科目の期待される学修成果に示した1～4について、幅広い学問分野における基礎的知識と正確な判断力を涵養するため、「人文科学系科目」、「社会科学系科目」、「自然科学系科目」、「健康・スポーツ系科目」、「総合教育系科目」の各分野・領域において諸科目を開講する。各授業科目には、個別の授業テーマが提示される。

4 E 群科目(実験・実習・演習の科目：自由選択)

明治学院共通科目の期待される学修成果1～4について、より発展的かつ実践的な能力を身につけるため、下記の科目を開講する。

(1) 外国語科目

英語のホーラー(聞く・話す)に加え、リテラシー(読む・書く)強化を目指して、英語研究を2年次以上に配当する。

初習語学修の進展を目指して、C 群で選択した初習語のインテンシブクラスとして各言語の「特別演習」を1年次以上に配当、またC 群で選択した言語以外の言語の基礎的な学修として各言語の「基礎」を1年次以上に配当する。

初習語によるコミュニケーション能力の養成のため、「(初習)語研究」を2年次以上に配当する。

留学希望の学生支援のため、「各言語特別研究」を開講する。

(2) 諸領域科目

情報処理能力、科学的思考力、身体能力、市民社会への参加、論文書法能力について、それぞれ実践的に学修するために、「コンピュータリテラシー研究」、「自然科学(物理学・化学・生物学)方法論」、「シーズ・スポーツ研究」、「ボランティア特別研究・実習」、「アカデミックリテラシー研究」を開講する。

5 H 群科目

明治学院共通科目の応用・発展的段階として、各自の関心あるテーマに基づき文献検索や調査・実験等を行いながら問題解決に必要な総合的能力とプレゼンテーション能力の向上を目指して、「リサーチ&プレゼンテーション」を2年次以上に配当すると共に、「アジア・日本研究」、「ヨーロッパ文化圏研究」、「現代科学研究」を3年次生以上に配当する。

6 I 群科目

幅広い教養に基づいて様々な文化的背景をもった人と相互に交流するとともに、自他の文化についての相対的な視点を獲得することを目指して、交換留学生とともに英語で学修する科目を1年次生以上に配当する。

心理学科

明治学院共通科目履修の方法

本学の授業科目は、学科科目と共通科目によって構成されており、それぞれについて卒業のために必要とされる修得単位数等が定められている。学生は、学科の定めるところに従いつつ、4年間にわたる自らの学修計画を決定しなければならない。以下は、「明治学院共通科目」の科目名と履修上の諸注意である。学生諸君には、下記の記載事項を精読して、履修登録上の事故を未然に防ぐとともに、自らの教養を高めるために有用な授業科目を見出すことを切に期待する。

[履修上の注意]

- ①A・Bあるいは1～8は、それぞれ独立した科目である。なお、原則としてA・Bは、同一曜時限の同一担当者のクラスを履修することとし、同一曜時限に複数クラスが開講されている場合にも、いずれか1クラスを定めて履修するものとする。
- ②以下の表の配当年次とは、その科目を履修できる下限の年次を示したものである。1年次配当科目とは、1年次以上の学生が履修できることを意味している。
- ③特に指示がある科目を除き、同一科目が異なる曜時限に複数開講されている場合でも、履修できるのは1つだけである。
(例:「キリスト教の諸相1」が月曜1限と月曜2限に開講されている場合、履修できるのは片方のみ)
- ④修得可能な単位数は、学科ごとに定められている。『履修要項』での説明を参照すること。
- ⑤履修可能なクラスの開講学期等については、Port Hepburnの開講科目情報 時間割表で、各自が所属する学科・入学年度の時間割表を参照すること。

[科目コードについて]

明治学院共通科目には科目コードが付番される。その意味は下記のとおりとなる。

<u>C・D・E・H・I</u>	+	<u>1 ～ 3</u>	+	<u>0 ～ 9</u>	+	<u>0 ～ 9</u>	+	<u>1 ～ 8</u>
科目群イニシアル		配当年次		科目群内の当該科目固有番号				
		(千の位)		(百の位以下)				

科目例： C1011 キリスト教の基礎 A
 D1001 キリスト教の諸相 1

[C 群科目]

必修および選択必修科目。以下の基本科目 1～3 について、それぞれ所定の単位を修得すること。

1. キリスト教基本科目

全学必修のキリスト教関連科目。A・Bそれぞれ2単位、計4単位を修得しなければならない。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	C1011 キリスト教の基礎 A	2	春	1	C1012 キリスト教の基礎 B	2	秋

2. 外国語基本科目

必修である英語科目と選択必修の初習語科目。

- ・英語科目については、「英語コミュニケーション」1A・B、2A・Bそれぞれ各1単位、計4単位を修得しなければならない。なお、特別に高度な英語運用能力を有すると認定された学生については、同科目の単位修得を免除されることがある。
- ・初習語とは、フランス語、中国語、ドイツ語、スペイン語、韓国語をいう。いずれか1言語を選択し、その言語について1A・B、2A・Bの各1単位、計4単位を修得しなければならない。可能な限り1年次での履修と単位修得が望ましい。
- ・「初習英語」1A・B、2A・Bは、英語学習経験のない者だけが履修できる。なお、この科目は横浜校舎のみの開講である。
- ・「日本語」1A・B、2A・Bは留学生のための必修外国語科目であり、一般学生は履修することができない。留学生は「日本語」1A・B、2A・B 4単位を必修とし、さらに日本語以外の言語（同一言語）から4単位を必修とする。
- ・原則として、入学時に選択した「初習語」は他の言語へ変更することはできない。ただし、特別の事情があり、オリエンテーション期間に申し出た者については、科目責任者が判断する。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	C1111 英語コミュニケーション 1A	1	春	1	C1112 英語コミュニケーション 1B	1	秋
1	C1113 英語コミュニケーション 2A	1	春	1	C1114 英語コミュニケーション 2B	1	秋
1	C1131 初習英語 1A	1	春	1	C1132 初習英語 1B	1	秋
1	C1133 初習英語 2A	1	春	1	C1134 初習英語 2B	1	秋
1	C1211 フランス語 1A	1	春	1	C1212 フランス語 1B	1	秋
1	C1213 フランス語 2A	1	春	1	C1214 フランス語 2B	1	秋
1	C1311 中国語 1A	1	春	1	C1312 中国語 1B	1	秋
1	C1313 中国語 2A	1	春	1	C1314 中国語 2B	1	秋
1	C1411 ドイツ語 1A	1	春	1	C1412 ドイツ語 1B	1	秋
1	C1413 ドイツ語 2A	1	春	1	C1414 ドイツ語 2B	1	秋
1	C1511 スペイン語 1A	1	春	1	C1512 スペイン語 1B	1	秋
1	C1513 スペイン語 2A	1	春	1	C1514 スペイン語 2B	1	秋
1	C1711 韓国語 1A	1	春	1	C1712 韓国語 1B	1	秋
1	C1713 韓国語 2A	1	春	1	C1714 韓国語 2B	1	秋
1	C1811 日本語 1A	1	春	1	C1812 日本語 1B	1	秋
1	C1813 日本語 2A	1	春	1	C1814 日本語 2B	1	秋

- ・英語以外の言語について、既習している言語を選択する際には必ず教務課窓口に相談すること。

3. 情報処理基本科目

- コンピュータに関する選択必修科目。
- ・「コンピュータリテラシー1」は入門クラス、「コンピュータリテラシー2」は初級クラスである。学生は、自らの習熟度を判断して1または2を選択し、2単位を修得しなければならない。なお、それぞれの授業内容についてはシラバスを参照すること。
 - ・入学時に中級以上の技能を有する学生については、E群科目「コンピュータリテラシー研究」1A・1B・2A・2Bから2単位を修得することにより、必修の2単位に振り替えることができる。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	C1911 コンピュータリテラシー 1	2	春または秋	1	C1912 コンピュータリテラシー 2	2	春または秋

[D 群科目]

分野別の基礎的講義科目。以下の諸科目から自由に選択して履修することができる。多様な科目を選択してもよいし、同一科目を集中的に選択してもよい。学生それぞれの関心に即して履修計画を立てることが可能である。

- ・それぞれの科目の科目番号ごとの内容は、シラバスに（授業テーマを付して）公表される。履修に際してはそれらを参照すること。

1. 人文科学系科目

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	D1001～1008 キリスト教の諸相 1～8	各 2	春・秋	1	D1011～1018 宗教史 1～8	各 2	春・秋
1	D1021～1028 哲学 1～8	各 2	春・秋	1	D1031～1037 倫理学 1～7	各 2	春・秋
1	D1041～1048 論理学 1～8	各 2	春・秋	1	D1051～1054 言語の科学 1～4	各 2	春・秋
1	D1061～1068 心理学 1～8	各 2	春・秋	1	D1071～1072 教育学 1～2	各 2	春・秋
1	D1081～1088 芸術学 1～8	各 2	春・秋	1	D1091～1098 日本文学 1～8	各 2	春・秋
1	D1101～1108 ヨーロッパ言語圏の文学 1～8	各 2	春・秋	1	D1111～1116 アジア言語圏の文学 1～6	各 2	春・秋
1	D1121～1128 日本文化論 1～8	各 2	春・秋	1	D1131～1138 ヨーロッパ言語圏の文化 1～8	各 2	春・秋
1	D1141～1148 アジア言語圏の文化 1～8	各 2	春・秋				

- ・3年次以上で「哲学（専）」1・2を履修するためには、「哲学」1～8、「倫理学」1～7、「論理学」1～8のうち、同一名称の科目2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。
- ・「心理学」1～8は他学科の学生が心理学を学ぶための科目のため、心理学科生は受講できない。

2. 社会科学系科目

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	D1201～1202 法学（日本国憲法を含む）1～2	各 2	春・秋	1	D1211～1212 政治学 1～2	各 2	春・秋
1	D1221～1228 社会学 1～8	各 2	春・秋	1	D1231～1232 社会福祉学 1～2	各 2	春・秋
1	D1241～1242 経済学 1～2	各 2	春・秋	1	D1251～1254 統計学 1～4	各 2	春・秋
1	D1261～1268 歴史学 1～8	各 2	春・秋	1	D1271～1278 地理学 1～8	各 2	春・秋
1	D1281～1282 文化人類学 1～2	各 2	春・秋	1	D1291～1294 社会科学概論 1～4	各 2	春・秋

3. 自然科学系科目

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	D1401～1408 数学 1～8	各 2	春・秋	1	D1411～1416 物理学 1～6	各 2	春・秋
1	D1421～1426 化学 1～6	各 2	春・秋	1	D1431～1437 生物学 1～7	各 2	春・秋
1	D1441～1442 生命科学 1～2	各 2	春・秋	1	D1451～1454 情報科学 1～4	各 2	春・秋

4. 健康・スポーツ科学系科目

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	D1601～1602 健康科学 1～2	各 2	春・秋	1	D1611～1612 スポーツ科学 1～2	各 2	春・秋
1	D1621～1624 スポーツ方法学 1～4	各 2	春・秋				

- ・履修に際しては、『明治学院共通科目 健康・スポーツ科学関連科目履修の手引き』を参照すること。

5. 総合教育系科目

配当 年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当 年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	D1801～1808 現代世界と人間 1～8	各 2	春・秋	1	D1811～1813 明治学院研究 1～3	各 2	春・秋
1	D1831～1836 環境学 1～6	各 2	春・秋	1	D1841～1848 ホランティア学 1～8	各 2	春・秋
1	D1851 ライフデザイン講座 1	2	春または秋	1	D1871～1873 現代平和研究 1～3	各 2	春・秋
2	D2821～2822 オルガソ実習 1～2	各 2	春・秋	2	D2852 ライフデザイン講座 2	2	春または秋
2	D2861 キャリアデザイン 1	2	春または秋	3	D3853～3854 ライフデザイン講座 3～4	各 2	春・秋

- ・「オルガソ実習」1～2は実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態について特別な条件が付されている。

[E 群科目]

実験・実習・演習の科目。履修者数が制限されることがあるので、履修希望者はシラバスを参照すること。

※A・Bは独立した科目であるが、可能な限り同一曜時限の同一担当者のクラスを履修することとし、同一曜時限に複数クラスが開講されている場合にも、いずれか1クラスを定めて履修するものとする。

1. 「特別演習〇〇語」

- ・C群の2で選択した初習語と同じ言語について、さらに学修機会を増やすことを希望する学生のためのインテンシブクラスである。
- ・原則として「初習語」1A・B、2A・Bと同一年次に履修するものとする。
- ・この科目の単位修得をもって、C群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1101 特別演習フランス語 A	1	春	1	E1102 特別演習フランス語 B	1	秋
1	E1111 特別演習中国語 A	1	春	1	E1112 特別演習中国語 B	1	秋
1	E1121 特別演習ドイツ語 A	1	春	1	E1122 特別演習ドイツ語 B	1	秋
1	E1131 特別演習スペイン語 A	1	春	1	E1132 特別演習スペイン語 B	1	秋
1	E1151 特別演習韓国語 A	1	春	1	E1152 特別演習韓国語 B	1	秋

2. 「〇〇語の基礎」

- ・C群の2で選択した初習語以外の言語について、基礎的な学修を希望する学生のためのインテンシブクラスである。したがって、C群の2で選択した初習語と同一の言語について、以下の科目を履修することはできない。
- ・年次を問わず履修することができる。
- ・この科目の単位修得をもって、C群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1201 フランス語の基礎 A	1	春	1	E1202 フランス語の基礎 B	1	秋
1	E1211 中国語の基礎 A	1	春	1	E1212 中国語の基礎 B	1	秋
1	E1221 ドイツ語の基礎 A	1	春	1	E1222 ドイツ語の基礎 B	1	秋
1	E1231 スペイン語の基礎 A	1	春	1	E1232 スペイン語の基礎 B	1	秋
1	E1241 ロシア語の基礎 A	1	春	1	E1242 ロシア語の基礎 B	1	秋
1	E1251 韓国語の基礎 A	1	春	1	E1252 韓国語の基礎 B	1	秋
1	E1261 イタリア語の基礎 A	1	春	1	E1262 イタリア語の基礎 B	1	秋
1	E1263 アラビア語の基礎 A	1	春	1	E1264 アラビア語の基礎 B	1	秋
1	E1265 タイ語の基礎 A	1	春	1	E1266 タイ語の基礎 B	1	秋

3. 「〇〇語研究」 ・ 「〇〇語特別研究」

- ・英語およびC群の2で選択した初習語について、次年度以降も学修を継続することを希望する学生のためのインテンシブクラスである。「〇〇語研究」1A・B、2A・Bは2年次から、「〇〇語研究」3A・Bは3年次以上から履修が可能となる。いずれも各学期2単位科目である。

- ・履修に際し一定の語学力が必要とされるため、「英語コミュニケーション」1A・B、2A・Bの計4単位を未修得の者が、以下の「英語研究」を履修することは望ましくない。また、「英語コミュニケーション」が必修ではない学生が履修を希望する場合は、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。
- ・C群の2で選択した「初習語」1A・B、2A・Bの計4単位を未修得の者が、以下の「〇〇語研究」を履修することは望ましくない。
- ・「英語特別研究」101、102は1年次で「英語コミュニケーション」に加えてリーディング（読み・書き）を強化することを希望する学生のためのインテンシブクラスである（英文学科、国際学科、国際キャリア学科を除く）。
- ・「英語特別研究」111～118、「フランス語特別研究」111～112、「ドイツ語特別研究」111～112、「スペイン語特別研究」111～112、「韓国語特別研究」111～112、「中国語特別研究」111～112は留学を希望する学生を支援する留学準備のためのインテンシブクラスである。履修に際しては一定の語学力を必要とされるため、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。履修の制限を伴う科目もあるので、必ず事前にPort Hepburnや配布資料等にて確認し、指示に従うこと。
- ・これらの科目の単位修得をもって、C群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
2	E2401 英語研究 1A	2	春	2	E2402 英語研究 1B	2	秋
2	E2403 英語研究 2A	2	春	2	E2404 英語研究 2B	2	秋
3	E3405 英語研究 3A	2	春	3	E3406 英語研究 3B	2	秋
2	E2411 フランス語研究 1A	2	春	2	E2412 フランス語研究 1B	2	秋
2	E2413 フランス語研究 2A	2	春	2	E2414 フランス語研究 2B	2	秋
3	E3415 フランス語研究 3A	2	春	3	E3416 フランス語研究 3B	2	秋
2	E2421 中国語研究 1A	2	春	2	E2422 中国語研究 1B	2	秋
2	E2423 中国語研究 2A	2	春	2	E2424 中国語研究 2B	2	秋
3	E3425 中国語研究 3A	2	春	3	E3426 中国語研究 3B	2	秋
2	E2431 ドイツ語研究 1A	2	春	2	E2432 ドイツ語研究 1B	2	秋
2	E2433 ドイツ語研究 2A	2	春	2	E2434 ドイツ語研究 2B	2	秋
3	E3435 ドイツ語研究 3A	2	春	3	E3436 ドイツ語研究 3B	2	秋
2	E2441 スペイン語研究 1A	2	春	2	E2442 スペイン語研究 1B	2	秋
2	E2443 スペイン語研究 2A	2	春	2	E2444 スペイン語研究 2B	2	秋
3	E3445 スペイン語研究 3A	2	春	3	E3446 スペイン語研究 3B	2	秋
2	E2451 ロシア語研究 1A	2	春	2	E2452 ロシア語研究 1B	2	秋
2	E2453 ロシア語研究 2A	2	春	2	E2454 ロシア語研究 2B	2	秋
3	E3455 ロシア語研究 3A	2	春	3	E3456 ロシア語研究 3B	2	秋
2	E2461 韓国語研究 1A	2	春	2	E2462 韓国語研究 1B	2	秋
2	E2463 韓国語研究 2A	2	春	2	E2464 韓国語研究 2B	2	秋
3	E3465 韓国語研究 3A	2	春	3	E3466 韓国語研究 3B	2	秋
1	E1401 英語特別研究 101	2	春	1	E1402 英語特別研究 102	2	秋
1	E1411 英語特別研究 111	2	秋	1	E1412 英語特別研究 112	2	春
1	E1413 英語特別研究 113	2	秋	1	E1414 英語特別研究 114	2	春
1	E1415 英語特別研究 115	2	秋	1	E1416 英語特別研究 116	2	春
1	E1417 英語特別研究 117	2	秋	1	E1418 英語特別研究 118	2	春
1	E1421 フランス語特別研究 111	2	秋	1	E1422 フランス語特別研究 112	2	春
1	E1431 ドイツ語特別研究 111	2	秋	1	E1432 ドイツ語特別研究 112	2	春
2	E2445 スペイン語特別研究 111	2	春	2	E2446 スペイン語特別研究 112	2	秋
1	E1451 中国語特別研究 111	2	秋	1	E1452 中国語特別研究 112	2	春
1	E1461 韓国語特別研究 111	2	秋	1	E1462 韓国語特別研究 112	2	春

4. 西洋古典語研究

- ・以下は「英語コミュニケーション」1A・B、2A・Bおよび「初習語」1A・B、2A・Bの単位の修得・未修得に関わりなく履修できる。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1301 キリシ語研究 A	2	春	1	E1302 キリシ語研究 B	2	秋
1	E1311 ラテン語研究 A	2	春	1	E1312 ラテン語研究 B	2	秋

5. 留学生関連科目

- ・以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。
- ・留学生の履修については、別途ガイダンス等の説明を参照し、その指導に従うこと。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1501 日本の歴史と文化 A	2	春	1	E1502 日本の歴史と文化 B	2	秋
1	E1511 日本の社会と政治経済 A	2	春	1	E1512 日本の社会と政治経済 B	2	秋
1	E1521 日本の科学と技術 A	2	春	1	E1522 日本の科学と技術 B	2	秋
2	E2541 日本語研究 1A	2	春	2	E2542 日本語研究 1B	2	秋
2	E2543 日本語研究 2A	2	春	2	E2544 日本語研究 2B	2	秋
2	E2545 日本語研究 3A	2	春	2	E2546 日本語研究 3B	2	秋

- ・「日本語研究」3A・3Bは、2年次生でも白金校舎で履修が可能である。

6. 「異文化コミュニケーション研究」

- ・以下の科目は、上記5の留学生科目のうち、「日本の歴史と文化」A・B、「日本の社会と政治経済」A・Bおよび「日本の科学と技術」A・Bにおいて、留学生の授業に一般学生が参加するために設けられた科目である。
- ・この科目の履修資格と履修上の要件については、シラバスを参照すること。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1531 異文化コミュニケーション研究 A	2	春	1	E1532 異文化コミュニケーション研究 B	2	秋

7. 情報処理関連科目

- ・以下はコンピュータリテラシー1および2の発展的学修科目である。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1601 コンピュータリテラシー研究 1A	2	春	1	E1602 コンピュータリテラシー研究 1B	2	秋
1	E1603 コンピュータリテラシー研究 2A	2	春	1	E1604 コンピュータリテラシー研究 2B	2	秋

8. 自然科学関連科目

- ・ 以下は自然科学の方法論を学ぶための科目であり、履修者による実験を中心に授業が行われる。
- ・ 履修に際してはシラバスを参照すること。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1701 物理学方法論 A	2	春	1	E1702 物理学方法論 B	2	秋
1	E1711 化学方法論 A	2	春	1	E1712 化学方法論 B	2	秋
1	E1721 生物学方法論 A	2	春	1	E1722 生物学方法論 B	2	秋

9. 健康・スポーツ科学関連科目

- ・ 学期中に開講される学内実習（1A、2A、3A）と長期休暇期間中に開講される学外実習（1B、2B、3B）とをセットで履修する科目である。
- ・ 履修に際しては、シラバス『明治学院共通科目 健康・スポーツ科学関連科目履修の手引き』を参照すること。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1801 シーズンスポーツ研究 1A	2	春	1	E1802 シーズンスポーツ研究 1B	2	春
1	E1803 シーズンスポーツ研究 2A	2	春	1	E1804 シーズンスポーツ研究 2B	2	春
1	E1805 シーズンスポーツ研究 3A	2	秋	1	E1806 シーズンスポーツ研究 3B	2	秋

10. 総合教育関連科目

- ・ 「教養原論」A・Bは学問諸分野の基礎的な技能を習得するための演習的科目である。
- ・ 「ワークキャンプ」A・Bは実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態について特別な条件が付されている。
- ・ 履修に際しては、シラバスを参照すること。
- ・ 「ボランティア実習」101・201は夏季集中で行われる実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態については特別な条件が付されている。
- ・ 「ボランティア特別研究」101～202は「ボランティア実習」101・201の事前研修を行う科目である。
- ・ 「アカデミックリテラシー研究」はレポート・論文書法のための演習的科目である。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1901 教養原論 A	2	春	1	E1902 教養原論 B	2	秋
1	E1911 野外地域研究 A	2		1	E1912 野外地域研究 B	2	
1	E1921 ワークキャンプ A	2		1	E1922 ワークキャンプ B	2	
2	E2931 ボランティア実習 101	2		2	E2932 ボランティア実習 201	2	
1	E1941 ボランティア特別研究 101	2	秋	2	E2942 ボランティア特別研究 102	2	春
1	E1943 ボランティア特別研究 201	2	秋	2	E2944 ボランティア特別研究 202	2	春
1	E1951 アカデミックリテラシー研究 1	2	春または秋	1	E1952 アカデミックリテラシー研究 2	2	春または秋
1	E1953 アカデミックリテラシー研究 3	2	春または秋				

11. 特別学科科目

・学科によっては、(注)に記載された資格の要件単位となる。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	社会学概論 A 注 1	2	春	1	社会学概論 B 注 1	2	秋

注 1： 中学（社会）、高校（公民）教育職員免許状取得のために履修する場合は「教職課程履修要項（諸資格）」も参照すること。

12. 短期留学認定科目

- ・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位を認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を修得することはできない。
- ・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「留学ハンドブック」を確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。

配当年次	科 目 名	単位数	配当年次	科 目 名	単位数
1	E1999 イギリス研究（短期留学）	4	1	E1999 オーストラリア研究（短期留学）	4
1	E1999 ヨーロッパ研究（短期留学）	4	1	E1999 アメリカ研究（短期留学）	4
1	E1999 韓国研究（短期留学）	4	1	E1999 スペイン研究（短期留学）	4
1	E1999 タイ研究（短期留学）	4	1	E1999 中国研究（短期留学）	4
1	E1999 ドイツ研究（短期留学）	4	1	E1999 フランス研究（短期留学）	4

13. 海外インターンシップ 関連科目

- ・以下は、海外インターンシップに参加した学生が、単位を修得することができる科目である。
- ・インターンシップ先によって別途配当年次が決められている場合があるので、必ず出願時に確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。
- ・これらの科目はP・F評価となるため、GPAには含まれない。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	E1961 海外インターンシップ 課題研究 A	2	春または秋	1	E1962 海外インターンシップ 課題研究 B	2	春または秋
1	E1963 海外インターンシップ A	4	春または秋	1	E1964 海外インターンシップ B	4	春または秋

[H 群科目]

2 年次または 3 年次配当の発展的科目。演習形式を中心とする。

※A・Bは独立した科目であるが、同一曜時限の同一担当者のクラスを履修することとし、同一曜時限に複数クラスが開講されている場合にも、いずれか1クラスを定めて履修するものとする。

※「リサーチ&プレゼンテーション」はそれぞれボランティア実習、短期留学、長期留学を目指す学生のために、実習、留学で特に力を入れたい点について特化して学習するプログラムである。留学・実習時期によってはAを秋学期、Bを春学期に開講することもある。履修に関しては担当教員の許可を得ることが必要である。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期	配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
2	H2011 リサーチ&プレゼンテーション 1A 注 1	2	春	2	H2012 リサーチ&プレゼンテーション 1B 注 1	2	秋
2	H2021 リサーチ&プレゼンテーション 2A 注 2	2	春	2	H2022 リサーチ&プレゼンテーション 2B 注 2	2	秋
2	H2031 リサーチ&プレゼンテーション 3A 注 3	2	春	2	H2032 リサーチ&プレゼンテーション 3B 注 3	2	秋
2	H2041 リサーチ&プレゼンテーション 4A 注 4	2	春	2	H2042 リサーチ&プレゼンテーション 4B 注 4	2	秋
2	H2051 リサーチ&プレゼンテーション 5A 注 5	2	春	2	H2052 リサーチ&プレゼンテーション 5B 注 5	2	秋
3	H3011 アジア・日本研究 A 注 6	2	春	3	H3012 アジア・日本研究 B 注 6	2	秋
3	H3021 ヨーロッパ文化圏研究 A 注 6	2	春	3	H3022 ヨーロッパ文化圏研究 B 注 6	2	秋
3	H3031 現代科学研究 A 注 6	2	春	3	H3032 現代科学研究 B 注 6	2	秋

注 1：国内ボランティア実習事前事後研修

注 2：海外ボランティア実習事前事後研修

注 3：アジア言語圏留学事前事後研修

注 4：ヨーロッパ言語圏留学事前事後研修

注 5：英語圏留学事前事後研修

注 6：履修に際しては、『明治学院大学 ホーム塾ガイドブック』を参照のこと。

[I 群科目]

英語で行われる科目。本学の交換留学生と一緒に学ぶ科目である。

配当年次	科 目 名	単位数	開講学期
1	I1101～I1106 Japanese Arts and Culture1～6	2	春・秋
1	I1111～I1116 Japanese History1～6	2	春・秋
1	I1121～I1126 Japanese Society1～6	2	春・秋
1	I1131～I1134 Multilingualism and Multiculturalism1～4	2	春・秋
1	I1141～I1144 Current Issues1～4	2	春・秋

※履修定員が設定される。

※履修に際しては一定の英語力が必要とされる。

※シラバスを熟読の上、必ず最初の授業に出席して担当教員から履修の許可を得ること。

《心 理 学 部》

人材養成上の目的・教育目標

心理学部は、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、心理学部の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

心理学部は“Do for Others”の精神のもと、「ここを探り、人を支える」を教育理念として、現代社会で多くの人が遭遇するさまざまな問題に対して支援することができる「心理支援力のある人材の育成」を人材養成上の目的とする。心理学の基礎を習得し、科学的方法論ならびに関連諸科学の学修と実践を通じて、行動を分析し理解する能力を修得し、その上で、各自の専門分野に応じ、生涯発達の諸段階において他者を理解し支援する力を身につけることを教育目標とする。

卒業の認定・学位授与に関する方針

心理学部は、明治学院大学の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、心理学部の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに所定の単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

- 1 グローバルな現代社会で人々が遭遇するさまざまな問題に対し、心理学または教育発達学的関心・理解を示し、それらへの積極的取り組みの姿勢を有している。
- 2 心理学の基礎を修得し、こころのメカニズムの理解のための科学的方法と実践的能力を身につけている。
- 3 自己理解をもとに、生涯発達の諸段階において他者を理解し、支援できる「心理支援力」を身につけている。
- 4 自分の個性をふまえ、キャリア発達における課題に対処する力を身につけている。

教育課程の編成および実施に関する方針

心理学部は、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、心理学部の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

- 1 心理学部の教育理念「ここを探り、人を支える」の意義を理解し、現代社会が提示する多様な問題に積極的に取り組む姿勢を養うため、自己理解力、他者理解力、関係性理解力、問題解決能力などを培うことを教育課程編成の方針とする。
- 2 学年進行に応じて基礎から専門へ段階的に配置された、心理学あるいは教育発達学に関する多くの専門科目の講義、実習や体験学習、少人数による演習および卒業研究等の諸科目の学修を通じて、上記「1」の力を学生が身につけられるよう教育課程を編成し実施する。
- 3 学修成果は、当該科目の学修目標の達成度を試験、レポート、発表、作品などにより担当教員が評価する。評価基準はそれぞれの科目のシラバスに明示する。

■心理学科

人材養成上の目的・教育目標

心理学部心理学科は、心理学部の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、心理学科の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

心理学の方法論ならびに各自の関心のある領域に関する専門的な知識や技能を獲得する。その上で、自己理解をふまえ、他者との関わりを通じて豊かな人間性と幅広い視野を養い、現代社会の様々な課題に取り組む積極的な姿勢を身につけることをねらいとする。

卒業の認定・学位授与に関する方針

心理学部心理学科は、心理学部の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、心理学科の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに 124 単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

- 1 心理学の方法論ならびに各自の関心のある領域に関する専門的な知識や技能を獲得していること。
- 2 自己理解をふまえ、他者との関わりを通じて豊かな人間性と幅広い視野を養い、現代社会の様々な課題に取り組む積極的な姿勢を身につけていること。

教育課程の編成および実施に関する方針

心理学部心理学科は、心理学部の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、心理学科の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

- 1 心理学部の教育理念「ここを探り、人を支える」の意義を理解し、現代社会が提示する多様な問題に積極的に取り組む姿勢を養うため、心理学を基盤とした自己理解力、他者理解力、関係性理解力、問題解決能力を培う。
- 2 心理学の方法論を基盤とし、その上に、心理学の多様な領域に関する専門的な知識や技能を得る講義、演習、実験・実習といった多様な科目を配置して、初年次からの段階的・体系的な教育を実践する。また、4年間にわたり演習科目を配置することにより、きめ細かな少人数教育を実施する。さらに外国語文献による専門学習を行う。
 - ・ 1年次：基礎的なアカデミックリテラシーの習得ならびに心理学に関する基礎的知識・スキルの学習
 - ・ 2年次：参加体験型学習による心理学の基礎的リテラシーの定着と理解
 - ・ 2～3年次：心理学の中核部分の学習（実験・実習、心理学の各領域についての知識の修得、外国語文献による心理学についての学習）
 - ・ 3～4年次：演習および専門科目による専門学習の深化（講義、実験・実習）、心理学の方法論の実践（卒業研究）
- 3 明治学院共通科目と心理学科科目、他学科科目を配置し、豊かな人間性と幅広い視野を養う。
- 4 学習成果の評価にあたっては、明確な成績評価基準を策定し、学生に提示する。

心 理 学 科

(履修の方法)

〔1〕心理学科カリキュラムの概要

1. 心理学科のカリキュラムは、専門教育科目（心理学科科目）、隣接領域科目（教育発達学科科目）、明治学院
共通科目、教職関連科目から構成されている。明治学院共通科目については、『明治学院共通科目履修の方法』
を参照すること。

2. 心理学科科目の概要

学科科目は、

- ・基礎科目
 - ① 講義科目
 - ② 実験・実習科目
 - ③ 演習科目
- ・専門科目
 - ① 講義科目
 - ② 実験・実習科目
 - ③ 演習科目
 - ④ 卒業論文

で構成される。

基礎科目は必修、選択必修または要求科目である。

専門科目は全て選択科目である。

専門科目の演習科目、卒業論文などを履修するためには、履修条件があるので注意してほしい。

〔2〕卒業までに必要な単位数

部 門			卒業までに必要な単位数			
明治学院 共通科目 (注 1)	キリスト教基本科目		I	4 単位	計 24 単位	
	外国語基本科目	英語	II	4 単位		
		初習語		4 単位		
	情報処理科目		III	2 単位		
	自由選択 (D・E・H・I 群科目を含む)		IV	10 単位		
学科科目	基礎科目	①講義科目	必修科目※	V	14 単位 (注 2)	計 70 単位 (Ⅶの単位は除く)
			選択必修科目 ｂ		6 単位 (注 2)	
			要求科目 ｈ	VI	(注 3)	
		②実験・実習科目	必修科目※	V	4 単位 (注 2)	
			選択必修科目 \$		1 単位 (注 2)	
			必修科目※		4 単位 (注 2)	
	専門科目	①講義科目	VI	41 単位 (注 4)		
		②実験・実習科目				
		③演習科目				
		④卒業論文				
フリーゾーン (明治学院共通科目・学科科目・教育発達学科科目から選択)			VII	30 単位 (注 5)	計 30 単位	
合 計 124 単位						

- (注1) 明治学院共通科目の履修方法を参照すること。なお、Ⅱで9単位以上取得した場合、Ⅲで3単位以上修得した場合は、Ⅳの単位として扱われる。Ⅳの11単位以上の単位はⅦの単位として扱われる。外国人留学生は、日本語4単位が必修であり、さらに日本語以外の言語(同一言語)から4単位を必修とする。
- (注2) Vの基礎科目は指定された必修科目(※)22単位、選択必修科目(ｂ)から6単位以上、選択必修科目(\$)から1単位以上を修得すること。選択必修科目(ｂ)7単位以上、選択必修科目(\$)2単位以上の単位はⅦの単位として扱われる。
- (注3) 要求科目(ｈ)は、卒業に必須ではないが、2年次に履修が義務づけられるものである。要求科目の単位はⅥの単位として扱われる。
- (注4) Ⅵの専門科目は基礎科目の要求科目の単位と合せて①講義科目②実験・実習科目③演習科目④卒業論文から41単位修得すること。42単位以上の単位はⅦの単位として扱われる。
- (注5) Ⅶの30単位は、明治学院共通科目、心理学科科目、および他学科科目のうちの教育発達学科科目から修得すること。
- (注6) 特に指示がある科目を除き、同一科目が複数開講されている場合でも、履修できるのは1つだけである。

〔3〕年間履修制限単位数

- ・1年間に履修できる単位数は48単位である(「教職に関する科目」と「教科に関する科目(卒業要件外)」は、16単位まで48単位を超えて履修できる)。
- ・同一授業科目を重複履修することはできない。
- ・編入生および転学科生の履修方法は個々の事情によって異なるはずなので、年度始めに教務課の指導を受けること。特に、転学科生の場合、転学科をしたことによる履修の特別な処置を約束するものではないことを承知しておくこと。

〔4〕履修中止除外科目について

- 学修の手引き「履修 7. 履修中止制度」で履修中止ができない科目としている必修科目、予備登録科目等に加えて、心理学科における「(g)各学科において定めている履修中止の申請ができない科目」は、以下のとおりである。
- ・ 選択必修である科目 (コンピュータリテラシーを含む)
 - ・ 専門科目の演習科目 (心理学演習)
 - ・ 要求科目 (心理学英語講読A)

〔５〕再試験

卒業年次生のうち、卒業に必要な単位数を、学科科目のうち講義科目 1 科目の範囲内で満たすことができなかった学生につき、当該年度の D 評価の科目を対象として再試験の機会を設ける。該当者の発表は 3 月の卒業生の発表と同時にを行い、試験は 3 月に実施する。ただし、9 月卒業申請者に対する再試験は実施しない。

〔６〕学科科目

（Ⅴ）基礎科目

以下の講義科目および実験・実習科目は卒業までに必要な単位数の表中Ⅴの単位として扱われる。

※はすべて必修科目である。必修科目は必ず配当年次に履修すること。

ｂおよび\$を付した科目は選択必修科目である。

ｂについては、5 科目中、3 科目（6 単位）以上を履修すること。7 単位以上はⅦの単位として扱われる。

\$については、3 科目中、1 科目以上を履修すること。2 単位以上はⅦの単位として扱われる。

＃を付した科目は要求科目である。要求科目は卒業に必須ではないが 2 年次に履修が義務づけられるものである。要求科目の単位はⅥの単位として扱われる。

①講義科目

配当年次	科 目 名		単位数	開講	備考
1	※	心の健康	2	学期	
1	※	心理学概論 A	2	学期	
1	※	心理学概論 B	2	学期	
1	※	心理学研究法	2	学期	
1	※	心理統計法	2	学期	
2	※	調査法	2	学期	
2	ｂ	生理心理学概論	2	学期	
2	ｂ	認知心理学概論	2	学期	
2	ｂ	社会心理学概論	2	学期	
2	ｂ	発達心理学概論	2	学期	
2	ｂ	臨床心理学概論	2	学期	
2	＃	心理学英語講読 A	2	学期	
3	※	心理学とキャリア	2	学期	

②実験・実習科目

配当年次	科 目 名		単位数	開講	備考
1	※	基礎統計学	2	学期	注 1
2	※	心理学基礎実験	2	学期	注 1
3	\$	観察・面接法実習	1	学期	注 2
3	\$	調査法実習	1	学期	注 2
3	\$	検査法実習	1	学期	注 2

（注 1） 2 時限連続で開講される。

（注 2） 定員を超えた場合は選考を行う。

③演習科目

配当年次	科 目 名		単位数	開講	備考
1	※	基礎演習 1	2	学期	
2	※	基礎演習 2	2	学期	

(VI) 専門科目

専門科目は、以下の科目で構成される。基礎科目の要求科目の単位と合せて①講義科目、②実験・実習科目、③演習科目、④卒業論文の中から、41単位以上を修得すること。42単位以上の単位は、Ⅶの単位として扱われる。

①講義科目

配当年次	科 目 名		単位数	開講	備考
2		学習心理学	2	学期	
2		生涯発達心理学（乳幼児・児童）	2	学期	
2		教育心理学	2	学期	
2		発達と障害の臨床心理学	2	学期	
2		異文化間心理学	2	学期	
2		対人社会心理学	2	学期	
2		心理学英語講読 B	2	学期	
2		パーソナリティ心理学	2	学期	
3		思考心理学	2	学期	
3		知覚心理学	2	学期	
3		神経心理学	2	学期	
3		生理心理学	2	学期	
3		生涯発達心理学（青年）	2	学期	
3		生涯発達心理学（成人・老年）	2	学期	
3		学校心理学	2	学期	
3		発達臨床心理学	2	学期	
3		グループアプローチ	2	学期	
3		健康心理学	2	学期	
※2		心身医学	2	学期	
3		心理アセスメント	2	学期	
3		精神医学	2	学期	
3		精神分析学	2	学期	
3		認知行動療法	2	学期	
※2		心理臨床動作学	2	学期	
3		犯罪心理学	2	学期	
3		キャリア心理学	2	学期	
3		コミュニティ心理学	2	学期	
3		家族心理学	2	学期	
3		産業・組織心理学	2	学期	
3		社会病理学	2	学期	
※2		応用統計学	2	学期	注 1
3		質的研究法	2	学期	注 1

（注 1）定員を超えた場合は選考を行う場合もある。

②実験・実習科目

配当年次		単位数	開講	備考
2	生理心理学実習	1	学期	注 1
3	臨床心理実習A	1	学期	注 1・注 2
3	臨床心理実習B	1	学期	注 1・注 2
3	社会・認知心理学実習	1	学期	注 1

（注 1）定員を超えた場合は選考を行う。

（注 2）「臨床心理実習」は在学中に A・B いずれか 1 科目のみ単位修得可能である。

③演習科目

配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考
3	心理学演習 1A	2	学期	注 1
3	心理学演習 1B	2	学期	注 1
4	心理学演習 2A	2	学期	注 2
4	心理学演習 2B	2	学期	注 2

（注 1）① 2 年次までの必修科目の単位を修得済みであることを履修条件とするゼミが多いが、詳細な履修条件の説明は、
2 年次に実施するゼミ説明会の時に行う。

② 2 年春学期までの成績による選考を行う場合もある。

（注 2）原則として「心理学演習 2A・2B」は同じ担当者の「心理学演習 1A・1B」を修得済みであること。

④卒業論文

配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考
4	卒業論文	4	通年	

履修予定者は、履修登録期間内に必ず各自履修登録すること。

「卒業論文」の単位を修得するためには、「心理学演習 2A」「心理学演習 2B」の両方の単位を修得する必要がある。

「卒業論文」を履修するためには、原則として同じ担当者の「心理学演習 2A」「心理学演習 2B」を同一年度に履修すること。論文は、1 2, 0 0 0 字以上であることを原則とする。

〔 7 〕他学科科目

①教育発達学科科目

下記科目は、心理学科生が履修できる教育発達学科科目である。以下の科目は卒業までに必要な単位数の表中Ⅶ（フリーゾーン；明治学院大学共通科目および学科科目部門）の単位として扱われる。

配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考
2	知的障害の病理	2	学期	
2	特別支援教育学総論 A	2	学期	
2	特別支援教育学総論 B	2	学期	
3	感情心理学	2	学期	
3	肢体不自由の心理・生理・病理	2	学期	
3	障害児教育相談とアセスメント	2	学期	
3	病弱の心理・生理・病理	2	学期	

配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考
3	学校経営と学校図書館	2	学期	注 1
3	学校図書館メディアの構成	2	学期	注 1
3	学習指導と学校図書館	2	学期	注 1
3	情報メディアの活用	2	学期	注 1
3	読書と豊かな人間性	2	学期	注 1

（注 1）教職科目を履修している学生のみ履修可能。（詳細は別途指示する）

②社会学科科目（卒業要件外）

下記科目は、心理学科生が履修できる社会学科科目である。

下記科目は、教育職員免許状のための単位として履修できる科目であり、卒業要件単位にならない。

下記「社会学科科目」と「〔8〕教職課程の教科に関する科目（社会学概論A・Bを除く）」および「教職課程履修要項（諸資格）」に記載の「教職に関する科目」を年間履修制限単位に加えて16単位まで履修できる。

配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考
3	家族社会学	2	学期	

〔8〕教職課程の教科に関する科目（卒業要件外）

下記科目は、教育職員免許状のための単位として履修できる科目である。

社会学概論A・Bを除いて、卒業要件単位にならない。

下記「教科に関する科目（社会学概論A・Bを除く）」と「社会学科科目」および「教職課程履修要項（諸資格）」に記載の「教職に関する科目」を年間履修制限単位に加えて16単位まで履修できる。

配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考
1	社会学概論 A・B	2・2	学期	注 1
2	日本史 1・2	2・2	学期	
2	世界史 1・2	2・2	学期	
2	地誌概説 1・2	2・2	学期	
2	地理学概論 1・2	2・2	学期	
2	憲法 A・B	2・2	学期	注 2
2	民法 A・B	2・2	学期	注 3
2	現代政治理論 1A・1B	2・2	学期	
2	国際政治学 A・B	2・2	学期	
3	哲学（専） 1・2	2・2	学期	注 4
3	宗教学概論 1・2	2・2	学期	
3	イギリス研究 A・B	2・2	学期	
3	労働法 1・2	2・2	学期	

（注 1）「社会学概論A・B」は、明治学院共通科目として開講されている。

（注 2）履修に際しては、再履修の場合を除き同一年度にA・B両方を履修すること。

なお、BはAで修得した知識が求められるため、Bは、Aと同一年度に履修するか、Aがすでに履修済み（修得または未修得を問わない）であることを条件とする。

（注 3）Bの履修にあたっては、Aが履修済みであることが望ましい。講義はAの知識を前提として行われる。

（注 4）「哲学（専） 1・2」を履修するためには、明治学院共通科目〔D群科目〕の「哲学 1～8」「倫理学 1～7」「論理学 1～8」のうち、同一名称の科目 2 科目（計 4 単位）を修得済みでなければならない。

〔9〕 小学校教育職員免許取得について

玉川大学と本学との協定に基づき、小学校教員免許を取得するために3年次から玉川大学通信教育部の科目等履修生になることができる。それを希望する学生は2年次に行われる説明会に出席し、面接を受け、学科による推薦を得なければならない。心理学科の選考基準は以下のとおりである。

小学校教員になりたいという強い意志を持っている学生で、以下の条件を満たし、面接による口頭試問に合格した者。

1) 2年次までに以下の学科必修科目および選択必修科目3科目以上の単位を修得または修得見込の者。

必修科目＝心の健康、心理学概論 A、心理学概論 B、心理学研究法、心理統計法、調査法、基礎統計学、心理学基礎実験、基礎演習 1、基礎演習 2

選択必修科目＝生理心理学概論、認知心理学概論、社会心理学概論、発達心理学概論、臨床心理学概論

2) 中学校社会科教員免許或いは高等学校公民科教員免許を取得する為に必要な以下の科目の単位を2年次までに修得または修得見込の者。

教育の思想と歴史、教育制度論、教職研究、社会科・地理歴史科教育研究 1、社会科・公民科教育研究 1、生徒理解と指導法、道德教育研究

但し、社会科・地理歴史科教育研究 1 と道德教育研究は高等学校公民科のみ修得する学生は不要。

〔10〕 卒業論文未提出者・不合格者の9月卒業について

- ・在学5年目以上の学生が、下記条件を満たしている場合、9月卒業の申請科目に「卒業論文」を含めることができる。
 - ① 前年度までに「心理学演習 2A」、「心理学演習 2B」の単位を修得済であること。
 - ② 前年度までに得た「卒業論文」の評価が「D」（提出したが不合格）または「N」（未提出）であること。
 - ③ 前年度までに「卒業論文」の指導を1年以上受けていること。
 - ④ 卒業希望年度に「卒業論文」と春学期科目の履修で卒業見込みが立つこと。
 - ⑤ 卒論指導担当者（それが不可能の場合は学科主任）に9月卒業を前提とした卒業論文履修者として、履修の許可を得ていること。
- ・申請者は、卒業論文を7月第一火または水曜日に教務課へ提出し、審査のうえ合格した場合、春学期末に単位を修得できる。
- ・上記期日に未提出または審査結果が不合格の場合、3月卒業予定の学生と同じ1月の期日に改めて提出することで、3月卒業の可能性はある。
- ・卒業論文を上記期日に提出し審査に合格した場合でも、他の卒業要件単位が春学期末に未修得ならば、卒業論文は年度末に単位を修得することになる。
- ・希望者は、教務課指定の履修許可書に卒論指導担当者の署名と捺印を受け、他の申請書類と併せて教務課に提出すること。

心理学科科目部門別一覧

科 目 名	単 位 数	配 当 年 次	開 講	科 目 名	単 位 数	配 当 年 次	開 講
(V) 基礎科目							
① 講義科目							
※ 心の健康	2	1	学期	※ 心理学研究法	2	1	学期
※ 心理学概論A	2	1	学期	※ 心理統計法	2	1	学期
※ 心理学概論B	2	1	学期	※ 調査法	2	2	学期
※ 心理学とキャリア	2	3	学期	b 生理心理学概論	2	2	学期
b 認知心理学概論	2	2	学期	b 発達心理学概論	2	2	学期
b 社会心理学概論	2	2	学期	b 臨床心理学概論	2	2	学期
# 心理学英語講読 A	2	2	学期				
② 実験・実習科目							
※ 基礎統計学	2	1	学期	※ 心理学基礎実験	2	2	学期
\$ 観察・面接法実習	1	3	学期	\$ 検査法実習	1	3	学期
\$ 調査法実習	1	3	学期				
③ 演習科目							
※ 基礎演習 1	2	1	学期	※ 基礎演習 2	2	2	学期
(VI) 専門科目							
① 講義科目							
知覚心理学・学習心理学領域							
学習心理学	2	2	学期	知覚心理学	2	3	学期
思考心理学	2	3	学期				
生理心理学・比較心理学領域							
生理心理学	2	3	学期	神経心理学	2	3	学期
教育心理学・発達心理学領域							
生涯発達心理学（乳幼児・児童）	2	2	学期	教育心理学	2	2	学期
生涯発達心理学（青年）	2	3	学期	学校心理学	2	3	学期
生涯発達心理学（成人・老年）	2	3	学期	発達臨床心理学	2	3	学期
臨床心理学・人格心理学領域							
発達と障害の臨床心理学	2	2	学期	グループアプローチ	2	3	学期
パーソナリティ心理学	2	2	学期	健康心理学	2	3	学期
心身医学	2	32	学期	犯罪心理学	2	3	学期
心理アセスメント	2	3	学期	認知行動療法	2	3	学期
精神分析学	2	3	学期	精神医学	2	3	学期
				心理臨床動作学	2	32	学期
社会心理学・産業心理学領域							
異文化間心理学	2	2	学期	家族心理学	2	3	学期
対人社会心理学	2	2	学期	キャリア心理学	2	3	学期
産業・組織心理学	2	3	学期	社会病理学	2	3	学期
コミュニティ心理学	2	3	学期				
研究法・英語講読							
応用統計学	2	32	学期	質的研究法	2	3	学期
心理学英語講読 B	2	2	学期				
② 実験・実習科目							
生理心理学実習	1	2	学期	臨床心理実習 B	1	3	学期
臨床心理実習 A	1	3	学期	社会・認知心理学実習	1	3	学期
③ 演習科目							
心理学演習 1A	2	3	学期	心理学演習 1B	2	3	学期
心理学演習 2A	2	4	学期	心理学演習 2B	2	4	学期
④ 卒業論文							
卒業論文	4	4	通年				

諸資格

1. 社会教育主事任用資格

社会教育主事任用資格が取得できる学科

社会教育主事任用資格は、社会学科生と教育発達学科生が取得することができます。
※教育発達学科生は 2015 年度以降入学生に限ります。

社会教育主事の職務

社会教育とは、学校教育法に基づき、学校において行われる教育活動を除く、主として青少年及び成人に行われる組織的な教育活動を言います。国及び地方公共団体はすべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るように環境を整える努力を義務づけています。都道府県及び市町村の教育委員会では、社会教育に関する諸般の事務を行うため社会教育主事を置いています。社会教育主事の主たる職務は社会教育を行う者に、専門的技術的な助言と指導を行うことです。

社会教育主事任用資格を得るには

下記1～4のいずれかに該当する者が社会教育主事任用資格を得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ社会教育主事にはなれません。**

1. 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得し、又は高等専門学校を卒業し、かつ次に掲げる期間を通算した期間が3年以上になる者で、必要とする社会教育主事の講習を修了した者
 - ①社会教育主事補の職にあった期間
 - ②官公署・学校・社会教育施設又は社会教育関係団体における職で司書・学芸員その他の社会教育主事補の職と同等以上の職として文部科学大臣の指定するものにあった期間
 - ③官公署・学校・社会教育施設又は社会教育関係団体が実施する社会教育に関係のある事業における業務であって、社会教育主事として必要な知識又は技能の習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間（①又は②に掲げる期間に該当する期間を除く）
2. 教育職員の普通免許状を有し、かつ5年以上文部科学大臣の指定する教育に関する職にあった者で、必要とする社会教育主事の講習を修了した者
3. 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得しかつ大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得し、1の①～③に掲げる期間を通算した期間が1年以上になる者
4. 社会教育主事の講習を修了した者（1及び2に掲げる者を除く）で、社会教育に関する専門的事項について1～3に掲げる者に相当する教養と経験があると都道府県の教育委員会が認定した者

本学社会学科生および教育発達学科生は、上記3に記載される「社会教育に関する科目」を履修することができます。必要な科目を修得した方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

（教育発達学科）

※本資格の取得は 2015 年度以降入学生に限ります。

※本資格の取得は国際教育コースに所属する学生を中心としていますが、他のコースに所属する学生であっても、所属しているコースで指示された科目を履修し、かつ年間履修制限を超えない範囲において必要な科目を履修し単位を修得すれば、本資格を取得することも可能です。但し国際教育コース以外のコースに所属する学生については、4 年間の在学期間中に本資格の取得を保証するものではありません。

社会教育主事講習等 規程に定める社会 教育に関する科目	教育発達学科で開講している科目名 ()内の数字はその科目の単位数		最低修得 単位数
生涯学習概論	生涯学習概論A (2)	生涯学習概論B (2)	必修 4単位
社会教育計画	多文化社会教育計画A (2)	多文化社会教育計画B (2)	必修 4単位
社会教育演習、社会教育実習 又は社会教育課題研究	多文化社会教育実習 (2)	多文化社会教育課題研究 (2)	必修 4単位
社会教育特講Ⅰ (現代社会と教育)	多文化教育 (2)	現代社会と教育改革 (2)	選択必修 12単位
社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)	教育の制度と経営 (2)	教育心理学 (2)	
社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)	教育原論 (2) 教育相談の理論と方法 (2) 生涯発達心理学（児童） (2)	読書と豊かな人間性 (2) 情報メディアの活用 (2) 教育課程編成論 (2)	

（注 1）社会教育に関する科目のうち、上記の表のように、必修 3 領域より 12 単位、選択必修より 12 単位、計 24 単位を修得する必要があります。

（注 2）『社会教育特講』は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲそれぞれから科目を修得することが望ましいです。

（注 3）「多文化社会教育実習」（通年 2 単位）を履修するには、前年度までに次の科目（3 科目）を修得済みであることが前提になります。

- ① 「多文化教育」（2 単位）
- ② 「生涯学習概論 A」・「生涯学習概論 B」のうち、少なくとも 1 科目 2 単位以上
- ③ 「教育の制度と経営」・「教育心理学」・「教育課程編成論」のうち、少なくとも 1 科目 2 単位以上

2. 社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格が取得できる学科

社会福祉主事任用資格は、すべての学科の学生が取得することができます。

社会福祉主事の職務

国、地方公共団体、社会福祉法人など社会福祉事業を経営する者は、福祉サービスを必要としている人たちが心身ともに健やかに育成され、または社会、経済、文化その他の活動に参加する機会が与えられ、その年令、環境、心身の状況に応じて、地域において必要な福祉サービスを提供できるようにしなければなりません。このことに基づき、地方公共団体は、福祉に関する事務所を設置しており、ここには社会福祉主事をおくよう社会福祉法において義務づけられています。

社会福祉主事は、その事務所において生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、及び知的障害者福祉法の定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務としています。

社会福祉主事任用資格を得るには

20歳以上の者で、人格高潔で思慮が円熟し、社会福祉の増進に熱意があり、かつ下記1～3のいずれかに該当する者が任用資格を得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ社会福祉主事にはなれません。**

1. 大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修め卒業した者
2. 厚生労働大臣の指定する養成機関又は講習会の課程を修了した者
3. 厚生労働大臣の指定する社会福祉事業従事者試験に合格した者

本学学生は、次ページに挙げる『**社会福祉法に定める科目**』を**3科目以上修得**することで、社会福祉主事任用資格を得ることができます。『社会福祉法に定める科目』に対し、『本学で開講している科目』を表記していますので、これらの科目を修得してください。

『本学で開講している科目』について、その科目を履修することができる学科を「○」で示しています、各科目の履修に際しては条件が付される場合もあります。詳しくは所属学部履修要項でご確認ください。なお表では学科名称に略称を用いています。（LE：英文学科、LF：フランス文学科、LA：芸術学科、EE：経済学科、EB：経営学科、EG：国際経営学科、SG：社会学科、SW：社会福祉学科、JU：法律学科、JC：消費情報環境法学科、JP：政治学科、KS：国際学科、KC：国際キャリア学科、PS：心理学科、PE：教育発達学科）

本資格の取得要件を満たしている方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

社会福祉主事の資格に関する科目

社会福祉法に定める科目名	本学で開講している科目名	履修できる学科 (2014～2017 年度入学生)															
		LE	LF	LA	EE	EB	EG	SG	SW	JU	JC	JP	KS	KC	PS	PE	
社会福祉概論	社会福祉学概論 A・B								○								
	D1231 社会福祉学 1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
社会福祉援助技術論	ソーシャルワーク 1A								○								
	社会福祉調査								○								
社会福祉調査論	社会調査の基礎							○									
	社会調査論											○					
	2213 社会調査法												○				
社会福祉行政論	社会福祉法制							○	○								
	福祉行財政と福祉計画							○	○								
社会保障論	社会保障論 A・B				○	○	○	○	○								
公的扶助論	公的扶助論 A							○	○								
児童福祉論	児童福祉論 A・B							○	○								
	子ども家庭福祉															※	
家庭福祉論	家庭福祉論							○	○								
保育理論	保育内容の指導法															○	
身体障害者福祉論	身体障害者福祉論							○	○								
知的障害者福祉論	知的障害者福祉論							○	○								
精神障害者保健福祉論	精神医学														○		
老人福祉論	高齢者福祉論 A・B							○	○								
地域福祉論	地域福祉論 A							○	○								
法学	D1201 法学(日本国憲法を含む)1	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		
	D1202 法学(日本国憲法を含む)2																
	2309 法学原論												○				
民法	民法 A・B				○	○	○	○	○			○			○		
	民法総則 1・2									○	○	○					
行政法	行政法 A・B				○	○	○	○	○								
	行政法 1-1・1-2									○	○	○					
	行政法 2-1・2-2									○	○	○					
経済学	経済学概論 1・2					○	○	○	○	○	○	○					
	財政学 1・2				○	○	○			○	○	○					
	ミクロ経済政策				○	○	○					○					
	マクロ経済政策				○	○	○					○					
	2205 経済原論												○				
社会政策	労働経済学 1・2				○	○	○										
心理学	心理学概論 A・B														○		
	心理学概論								○								
	心理学総論															○	
社会学	社会学概論 A・B	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		
	社会学概論								○								
	2308 社会学原論												○				
教育学	教育の思想と歴史	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		
	教育原論															○	
医学一般	医学知識								○								
リハビリテーション論	リハビリテーション論															※	
介護概論	介護概論								○								

- (注1)『本学で開講している科目』がない『社会福祉法に定める科目』は上記の表に掲載していません。
- (注2)『本学で開講している科目』において、科目名の後にA・B、1・2が付されている科目は、2科目セットで修得しなければ『社会福祉法に定める科目』1科目と数えることができません。
- (注3)『社会福祉法に定める科目』の同じ区分で、本学で開講している科目を複数科目修得しても、1科目と数えます。(例えば、社会福祉学科生が「社会福祉学概論A・B」と「社会福祉学1・2」の合計4科目を修得した場合は、『社会福祉法に定める科目』の『社会福祉概論』1科目の修得と数えます。)
- (注4)表中の注釈は以下の意味です。
- ※：2015 年度以降入学生のみ履修可能です。

3. 児童福祉司任用資格

児童福祉司の職務

児童福祉法に基づき、児童相談所には児童福祉司をおくことが義務づけられています。

児童福祉司は、児童相談所長の命を受けて、児童の保護、その他児童の福祉に関する事項について、相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な指導を行う等、児童の福祉の増進に努めることを職務としています。

児童福祉司に任用される要件

1. 学校教育法に基づく大学において心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修め卒業した者であって、厚生労働省令で定める施設において1年以上児童その他の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う業務に従事した者
2. 社会福祉主事として2年以上、児童福祉事業に従事した者
3. 厚生労働大臣の指定する児童福祉司又は児童福祉施設の職員を養成する学校その他の施設を卒業し又は厚生労働大臣の指定する講習会の課程を修了した者
4. その他（略）

上記のいずれかに該当する者はこの任用資格が得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ児童福祉司にはなれません。**

本学社会学科生・社会福祉学科生・心理学科生・教育発達学科生は、卒業することで、上記1に定める「心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修め卒業した者」であることになります。その証明は卒業証明書で行うことができます。

児童福祉司任用資格の取得には、これに加えて「厚生労働省令で定める施設において1年以上児童その他の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う業務に従事」する必要があります。

公認心理師

公認心理師の資格と職務

公認心理師法は、2015年9月9日に議員立法により成立し、2017年9月15日に施行された。

公認心理師は、心理学に特化した初めての国家資格である。近年の国民が抱える心の健康の問題は、生活に関わる重要な問題であり、学校、医療機関、その他企業をはじめとする様々な職場において、心理職の活用の促進が求められる。これらの心の問題等をめぐる状況に鑑み、心理に関する支援を必要とする人々の心理に関する相談、援助等の業務に従事する者の資質の向上及びその業務の適正を図り、国民が安心して心理に関する支援を受けられるようにするため、国家資格によって裏付けられた一定の資質を備えた心理職として、公認心理師資格が定められた。

公認心理師は、公認心理師法第2条によれば、「公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者」である。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

公認心理師法の施行前に大学に入学した者が公認心理師国家試験の受験資格を得るには、経過措置（附則第2条第1項第3号及び第4号）により、大学において省令で定める科目の単位を修得して卒業した後、大学院において省令で定める科目の単位を修得したうえで大学院を修了する（Eルート、47ページ参照）、または、認定された医療機関等での実務経験を2年以上（標準は3年）積む（Fルート、47ページ参照）必要がある。

2014年度～2017年度生の「公認心理師」国家試験受験資格取得に必要な科目

「公認心理師法」に基づき、本学では2014年度～2017年度生が「公認心理師」国家試験受験資格取得に必要な科目を、46ページのように設定している。「公認心理師の科目」に対応した「明治学院大学での科目」について、区分I～Vのそれぞれについて定めた科目の単位を在学中に全て修得し卒業した後、①大学院において省令で定める科目の単位を修得したうえで大学院を修了する（Eルート）、または、②認定された医療機関等での実務経験を2年以上（標準は3年）積む（Fルート）ことによって、国家試験の受験資格が得られる。したがって、この試験を受験しようとする者は、46ページの諸点をよく注意して科目を履修する必要がある。

◎科目読み替え表

法令に定められている「公認心理師」の科目と明治学院大学での科目との対応は次の表のとおりである。①と③を除いた23科目をその類似性からI～Vの5つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計12科目以上相当）の単位を在学中に全て修得する必要がある。

区分		公認心理師の科目	明治学院大学での科目※1
		①公認心理師の職責	※修める必要のある科目としない
I	3科目以上	②心理学概論	心理学概論 A、心理学概論 B
		③臨床心理学概論	—
		④心理学的研究法	心理学的研究法、調査法
		⑤心理学統計法	心理統計法
		⑥心理学実験	心理学基礎実験
II	4科目以上	⑦知覚・認知心理学	認知心理学概論、知覚心理学
		⑧学習・言語心理学	学習心理学、思考心理学
		⑨感情・人格心理学	パーソナリティ心理学
		⑩神経・生理心理学	生理心理学概論、生理心理学、神経心理学
		⑪社会・集団・家族心理学	社会心理学概論、対人社会心理学、家族心理学、 コミュニティ心理学、異文化間心理学
		⑫発達心理学	発達心理学概論 生涯発達心理学（乳幼児） 生涯発達心理学（児童） 生涯発達心理学（乳幼児・児童） 生涯発達心理学（青年） 生涯発達心理学（成人・老年）
		⑬障害者（児）心理学	発達と障害の臨床心理学
III	2科目以上	⑭心理的アセスメント	心理アセスメント
		⑮心理学的支援法	臨床心理学概論、精神分析学、認知行動療法、 心理臨床動作学、グループアプローチ
		⑲心理演習	臨床心理実習 A、臨床心理実習 B
		⑳心理実習（時間は問わない）	—
IV	2科目以上※3	⑯健康・医療心理学	健康心理学
		⑰福祉心理学	—
		⑱教育・学校心理学	教育心理学、学校心理学、発達臨床心理学
		㉑司法・犯罪心理学	犯罪心理学、社会病理学
		㉒産業・組織心理学	産業・組織心理学、キャリア心理学、 心理学とキャリア
V	1科目以上※2	㉓人体の構造と機能及び疾病	心身医学
		㉔精神疾患とその治療	精神医学
		㉕関係行政論	※修める必要のある科目としない

※1 「明治学院大学での科目」において複数の科目の記載があるものについては、いずれか1つの科目の単位が修得できていれば、「公認心理師の科目」における当該科目を修めたと認められる。なお、「明治学院大学での科目」において複数の科目名の記載があるものについては、入学年次によって開講されていない科目が含まれている場合がある。2013年度以前の入学生の読み替え表は、心理学部オリジナルサイト（<http://psy.meijigakuin.ac.jp/ps/psychologist/>）より入手できる。

※2 ⑯はV群に読み替え可能。ただし、⑯はIV群かV群のどちらかの群でしか読み替えられない。

※3 ⑯をV群に読み替える場合は⑰～㉒から2科目以上が必要となる。

全学年共通

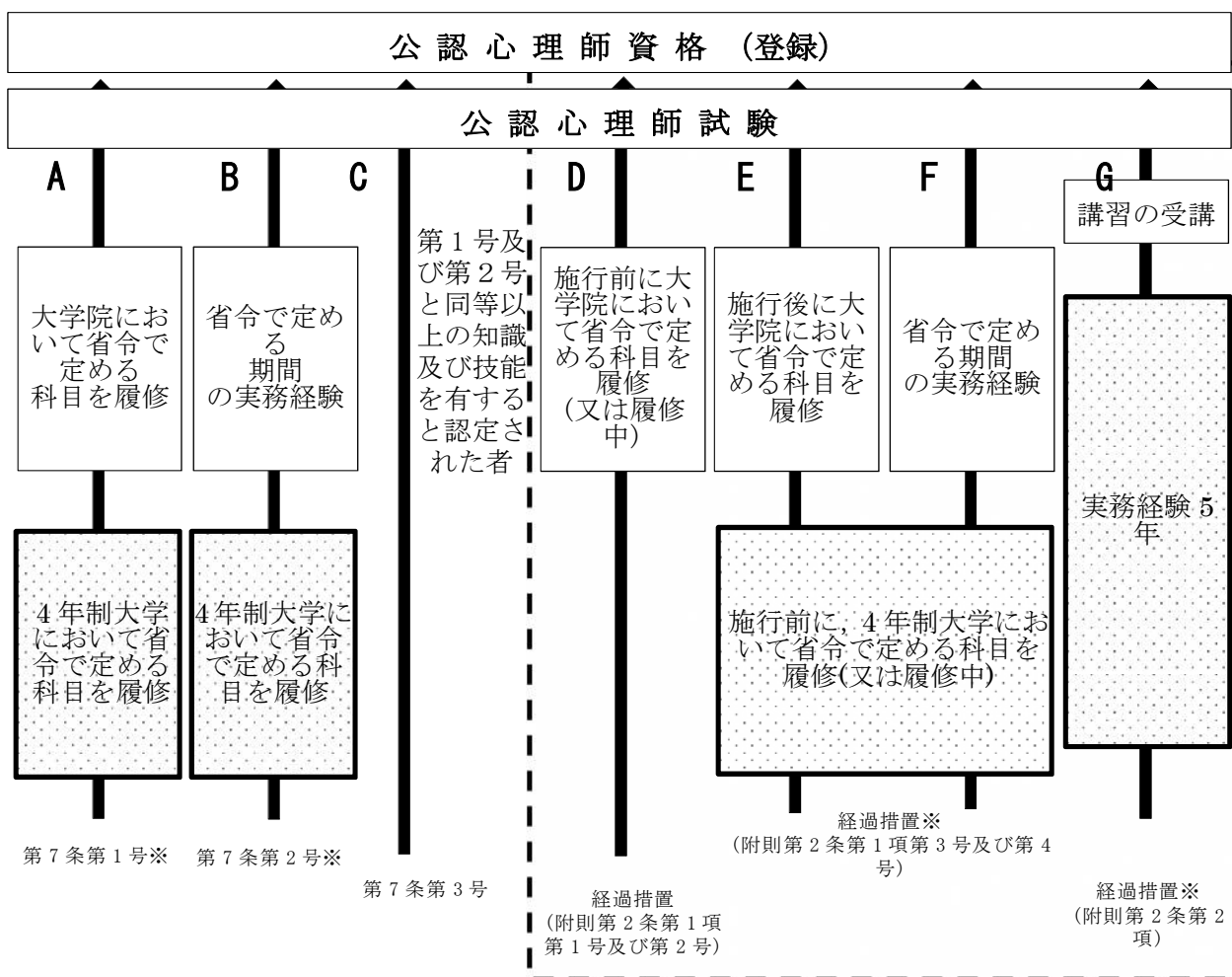
1. 転学科生が公認心理師試験の受験資格を得ようとする場合、本学では、原則として卒業までに3年以上を要するので注意すること。
2. 公認心理師の資格取得方法は以下の図のとおりである。

公認心理師資格・受験に関する情報は下記を参照のこと。

厚生労働省 公認心理師関連ページ

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html>

公認心理師の資格取得方法について



*該当条文に戻づく受験資格取得者に「準ずるもの」を省令で定めることとされている

(「公認心理師カリキュラム等検討会 報告書」より)

心理学部専任教員一覧

心理学科

氏 名	主な担当領域
伊藤 拓	学校心理学
金沢 吉展	健康心理学／臨床心理学
川端 一光	教育心理学／心理統計学
金城 光	認知心理学
清水 良三	心理臨床動作学
杉山 恵理子	グループアプローチ／福祉心理学
平子 雪乃	心理実習／心理演習
田中 知恵	産業・組織心理学／社会心理学
滑川 瑞穂	臨床心理アセスメント
西園マーハ 文	臨床精神医学
野末 武義	家族心理学
野村 信威	生涯発達心理学
花田 安弘	生理心理学
宮本 聡介	社会心理学／社会的認知
森本 浩志	認知行動療法

教育発達学科

氏 名	主な担当領域
緒方 明子	障害児・者心理学
小野 昌彦	教育臨床心理学
垣花 真一郎	教育心理学
鞍馬 裕美	教育経営学
小林 潤一郎	障害児医学／発達小児科学
佐藤 公	社会科教育学
渋谷 恵	比較・国際教育学
杉山 雅俊	理科教育学
谷川 夏実	保育学・幼児教育学
玉腰 和典	体育科教育学
辻 宏子	数学教育学
手塚 千尋	美術科教育学
中村 敦雄	国語科教育学
根本 淳子	教育方法学
松永 あけみ	発達心理学／保育心理学
水戸 博道	音楽科教育学
宮崎 眞	特別支援教育学

心理学科 2017 年度生用 心理学部 履修要項 変更・訂正箇所について

新 旧 対 照 表

ページ 変更日	新	旧																																																																																										
P.50 2018 年 3月 20日	〔 8 〕教職課程の教科に関する科目（卒業要件外） <table><tr><th>配当年次</th><th>科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>...</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>地理学概論 1・2</td><td>2・2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>憲法 A・B</td><td>2・2</td><td>学期</td><td>注 2</td></tr><tr><td>2</td><td>民法 A・B</td><td>2・2</td><td>学期</td><td>注 2</td></tr><tr><td>2</td><td>現代政治理論 1A・1B</td><td>2・2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>国際政治学 A・B</td><td>2・2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>哲学（専）1・2</td><td>2・2</td><td>学期</td><td>注 3</td></tr><tr><td></td><td>...</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (注 1)「社会学概論A・B」は、明治学院共通科目として開講されている。 (削除) (注 2) Bの履修にあたっては、Aが履修済みであることが望ましい。講義はAの知識を前提として行われる。 (注 3)「哲学（専）1・2」を履修するためには、明治学院共通科目〔D群科目〕の「哲学1～8」「倫理学1～7」「論理学1～8」のうち、同一名称の科目2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。	配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考		...				2	地理学概論 1・2	2・2	学期		2	憲法 A・B	2・2	学期	注 2	2	民法 A・B	2・2	学期	注 2	2	現代政治理論 1A・1B	2・2	学期		2	国際政治学 A・B	2・2	学期		3	哲学（専）1・2	2・2	学期	注 3		...				〔 8 〕教職課程の教科に関する科目（卒業要件外） <table><tr><th>配当年次</th><th>科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>...</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>地理学概論 1・2</td><td>2・2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>憲法 A・B</td><td>2・2</td><td>学期</td><td>注 2</td></tr><tr><td>2</td><td>民法 A・B</td><td>2・2</td><td>学期</td><td>注 3</td></tr><tr><td>2</td><td>現代政治理論 1A・1B</td><td>2・2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>国際政治学 A・B</td><td>2・2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>哲学（専）1・2</td><td>2・2</td><td>学期</td><td>注 4</td></tr><tr><td></td><td>...</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (注 1)「社会学概論A・B」は、明治学院共通科目として開講されている。 (注 2) 履修に際しては、再履修の場合を除き同一年度にA・B両方を履修すること。 なお、BはAで修得した知識が求められるため、Bは、Aと同一年度に履修するか、Aがすでに履修済み（修得または未修得を問わない）であることを条件とする。 (注 3) Bの履修にあたっては、Aが履修済みであることが望ましい。講義はAの知識を前提として行われる。 (注 4)「哲学（専）1・2」を履修するためには、明治学院共通科目〔D群科目〕の「哲学1～8」「倫理学1～7」「論理学1～8」のうち、同一名称の科目2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。	配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考		...				2	地理学概論 1・2	2・2	学期		2	憲法 A・B	2・2	学期	注 2	2	民法 A・B	2・2	学期	注 3	2	現代政治理論 1A・1B	2・2	学期		2	国際政治学 A・B	2・2	学期		3	哲学（専）1・2	2・2	学期	注 4		...			
配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考																																																																																								
	...																																																																																											
2	地理学概論 1・2	2・2	学期																																																																																									
2	憲法 A・B	2・2	学期	注 2																																																																																								
2	民法 A・B	2・2	学期	注 2																																																																																								
2	現代政治理論 1A・1B	2・2	学期																																																																																									
2	国際政治学 A・B	2・2	学期																																																																																									
3	哲学（専）1・2	2・2	学期	注 3																																																																																								
	...																																																																																											
配当年次	科 目 名	単位数	開講	備考																																																																																								
	...																																																																																											
2	地理学概論 1・2	2・2	学期																																																																																									
2	憲法 A・B	2・2	学期	注 2																																																																																								
2	民法 A・B	2・2	学期	注 3																																																																																								
2	現代政治理論 1A・1B	2・2	学期																																																																																									
2	国際政治学 A・B	2・2	学期																																																																																									
3	哲学（専）1・2	2・2	学期	注 4																																																																																								
	...																																																																																											
P. 2018 年 3月 20日	履修要項の公認心理師の項	(新設項目)																																																																																										

ページ 変更日	新	旧																																								
2018 年 3月20 日 (毎年 更新)	<u>履修要項の心理学部専任教員一覧の項</u>	(新設項目)																																								
2018 年 3月20 日	<table><tr><th>配当年次</th><th>科目名</th><th>単位数</th><th>開講</th><th>備考</th></tr><tr><td>2</td><td>応用統計学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>心身医学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>心理臨床動作学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr></table> ※当該の3科目について、配当年次を3年次から2年次へ変更。	配当年次	科目名	単位数	開講	備考	2	応用統計学	2	学期		2	心身医学	2	学期		2	心理臨床動作学	2	学期		<table><tr><th>配当年次</th><th>科目名</th><th>単位数</th><th>開講</th><th>備考</th></tr><tr><td>3</td><td>応用統計学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>心身医学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>心理臨床動作学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr></table>	配当年次	科目名	単位数	開講	備考	3	応用統計学	2	学期		3	心身医学	2	学期		3	心理臨床動作学	2	学期	
配当年次	科目名	単位数	開講	備考																																						
2	応用統計学	2	学期																																							
2	心身医学	2	学期																																							
2	心理臨床動作学	2	学期																																							
配当年次	科目名	単位数	開講	備考																																						
3	応用統計学	2	学期																																							
3	心身医学	2	学期																																							
3	心理臨床動作学	2	学期																																							
P. 2018 年 3月20 日	心理学教科科目部門別一覧 <table><tr><th>科目名</th><th>単位数</th><th>配当年次</th><th>開講</th></tr><tr><td>応用統計学</td><td>2</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>心身医学</td><td>2</td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>心理臨床動作学</td><td>2</td><td>2</td><td></td></tr></table> ※当該の3科目について、配当年次を3年次から2年次へ変更。	科目名	単位数	配当年次	開講	応用統計学	2	2		心身医学	2	2		心理臨床動作学	2	2		心理学教科科目部門別一覧 <table><tr><th>科目名</th><th>単位数</th><th>配当年次</th><th>開講</th></tr><tr><td>応用統計学</td><td>2</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>心身医学</td><td>2</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>心理臨床動作学</td><td>2</td><td>3</td><td></td></tr></table>	科目名	単位数	配当年次	開講	応用統計学	2	3		心身医学	2	3		心理臨床動作学	2	3									
科目名	単位数	配当年次	開講																																							
応用統計学	2	2																																								
心身医学	2	2																																								
心理臨床動作学	2	2																																								
科目名	単位数	配当年次	開講																																							
応用統計学	2	3																																								
心身医学	2	3																																								
心理臨床動作学	2	3																																								